

# すっかんぽ

1994年 8月号

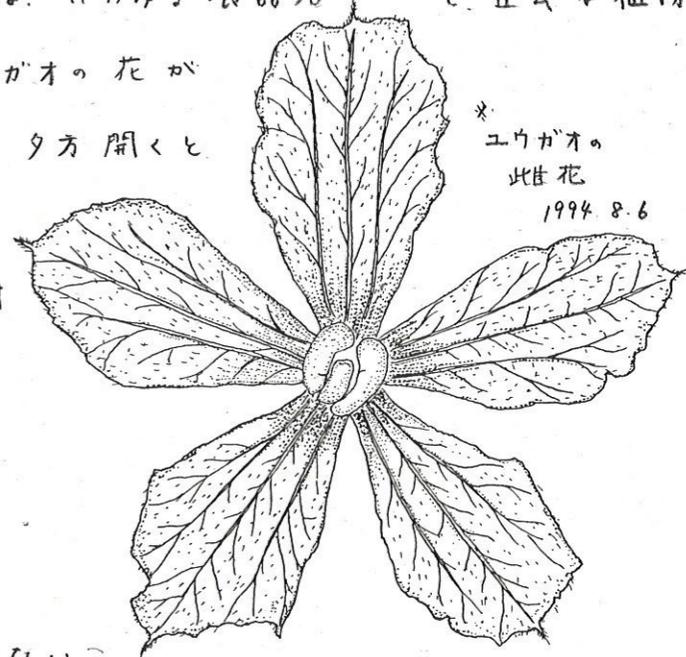
## カンピョウ story in 夏休み

遠足や運動会のお弁当の王様と言えば、「おすし」  
その「おすし」に欠かせない物で 栃木県の特産物と言たら？  
そう、それは間違いなく、カンピョウなのだ。 全国で栃木  
県が生産量一位という話を聞くと、「ほう、栃木県もなか  
なかやるもんだわい」と、まんざらでもないが、行事関係には  
め、ほう強いわりに、日常生活では、台所の片隅でひそりと  
眠るわびしさも 思い浮かべると複雑な気分である。  
ましてや、「おかーさん、このカンピョウ、かびてるよ」とあさり捨て  
られる日には、この世のほかなさまで感じてしまう始末である。  
そこで、夏休み中に、放送部の生徒2名とともに、栃木県のカン  
ピョウ産業の実体を探るべく取材を行った。 そして、  
その結果は、放送部の全国大会において、発表されたのであった。

7月25日、我々3名は、国分寺町 や小山園芸高校の近くで  
カンピョウ畑を見た。 という証言を頼りに、あちこちをさまよった。  
そしてついにカンピョウを干している一軒の農家と発見し、アホなし  
取材を試みたのだ。 時計は午後2時、この世で最も暑い時間帯  
をさしていた。「ごめんください……」しかし、近所はなかった。  
家の中では、おじさんが電話中だった。 我々は、暑さでボーッとし  
ながら、電話が終わるまでひたすら待った。 やがておじさんが  
現われた。「あのう、小山西高の放送部の者ですが、カンピョウ  
の取材をさせてください。」 我々の申し出を聞くと、おじさんは  
ふらりと家の中へ入ってしまった。 なぜ？ しかし、すぐに麦わら帽子  
をかぶって、おじさんは、さっそうと再登場した。 どうやら、本腰を入れ  
てカンピョウの説明をしてくれるらしいが、一方、帽子を忘れた  
我々3名の頭上には、容赦なく真夏の太陽が照りつけていた。

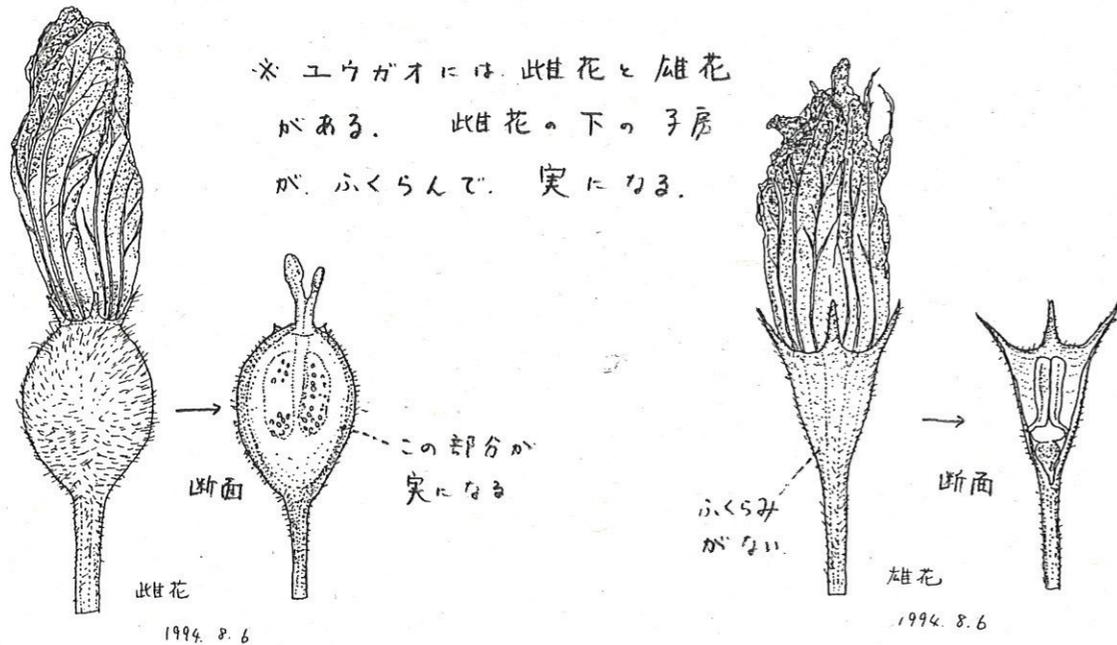
ところで、カンピョウというのは、いわゆる食品名で正式な植物  
名は、ユウガオという。 アサガオの花が  
朝、咲くようにユウガオの花は夕方開くと  
ころから、名前がきている。  
重さが6、7キロにもなるユウガオ  
の実は、細くむいて干したものが  
カンピョウなのである。

ユウガオの花の写真を撮ろうと  
考えていた我々の前に、花が  
咲いてなかったことは言うまでもない。  
(ユウガオの花)



カンピョウ畑には、直径 20 cm 程度の実がいくつかなっていた。しかし、この程度では小さすぎて、皮がむけないうしかなかった。  
 「きのうまでは、毎日、皮もむいていたんだけどねえ。あと、1週間ぐらいたつと、むけるくらいになるよ」あまりのタイミングの悪さに我々は、思わずため息をついた。しかし親切なおじさんは、きのうの朝むいた実の残りを、ゴミ捨て場から捨てきて、皮むきを実演してくれたのであった。

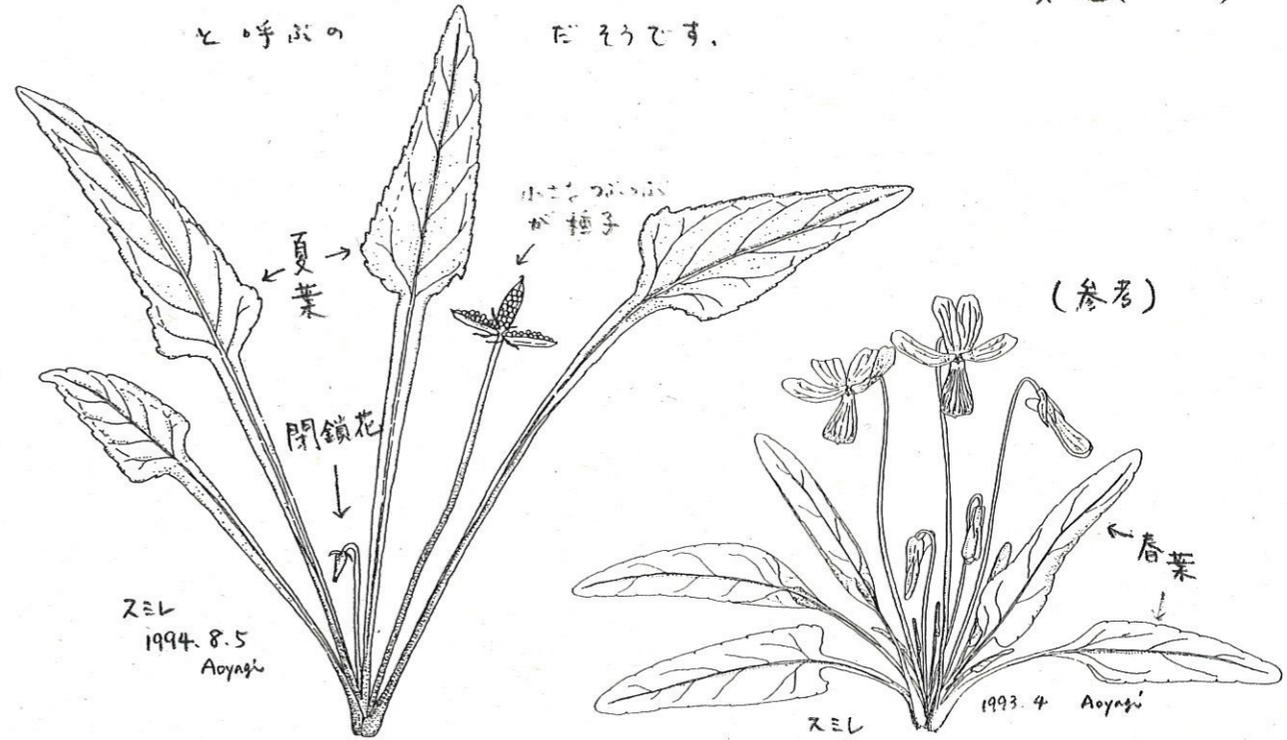
「朝、5時か6時ころにすれば、きれいな花がみられるよ。」1時間以上、我々につき合ってくれたおじさんの言葉に、「はい、また来ます!」と元気に答えたが、我々は帽子がなかったせいか、もうエネルギーを使い果たしてしまっていた。帰りぎわに、おじさんの奥さんがさし入れてくれたジュースを飲みながら、「いつか必ず、ユウガオの花も見に来るからね。」と心に誓ったのであった。(その誓いは、8月6日に実行された)



< 第2部 夏休み中の公開質問状 >

Q.1 これは何という植物ですか。  
 (全校登校日 8/5 の草むしりの時、2-6 の Y さん他より)

Ans. 花が咲いていなかったので調べたのに、けっこう苦労しました。答えは、スミシです。スミシは夏になると、急に大きな葉(夏葉)を出します。4月3日見たスミシ(春葉)と比べてみて下さい。しかも花を開かぬまま小さなつぼみの中で結実してしまうのです。このような花を閉鎖花(ヘリスカ)と呼ぶのだそうです。



Q.2 このマユは、何ですか。  
 (全校登校日の翌日、2-6 の O 君が家の庭で発見したものを持ってきてくれた。その数 5 個。カシの木の新葉のほにくるまっていた、という話だった)

Ans. 図鑑で調べてみたら、ヤママユガという昆虫のつくったマユであることがわかりました。(しかもカイコと同じようにこのマユから糸がとれるそうです。「すかんぼ」9月号で、再び追求する予定です)

